

第1学年3組 音楽科学習指導案

日時 平成28年1月19日(火) 第5校時
在籍数 男子23名 女子15名
指導者 教諭 萩原 忍

1 題材名 和楽器の響きと我が国の伝統的な歌唱に親しもう

2 題材について

(1) 生徒の実態

(2) 題材について

本題材は、表現活動と鑑賞活動を通して、箏に親しませるとともに西洋音楽の発声の特徴と比較する学習を行うことで伝統的な声の特徴を感じ取ることができる。「姫松」や「さくらさくら」は生徒にとって取り組みやすく、技能面でも無理のない教材を取り扱うことで、我が国の伝統音楽に使われている音階の響きや我が国の伝統音楽のよさを一層味わうことができる。そして、我が国の伝統音楽の独特の雰囲気や表現方法に着目させることで、今後の音楽活動に、より意欲的に取り組むことができると考える。また、学習を効果的に進めるために、グループ活動では、生徒同士で話し合いをしながら箏の音色に合った声の特徴を工夫したり、互いに確認し合う場面をつくったりしながら音楽表現を深めていきたい。指導に当たっては、生徒が実際に声や音を出し、体験することを通して、我が国の伝統音楽を大切にしようとする態度を育てたい。

(3) 学習指導要領との関連について

本題材では、我が国の伝統音楽に親しみ、音楽に対する理解を深めるために、学習指導要領のA表現(1)イ、(2)イ、B鑑賞アを指導するものとする。

3 題材の目標

- (1) 箏の音色や奏法、箏曲にふさわしい発声や言葉の特性を生かして歌うことに関心をもち、演奏したり鑑賞したりする活動に主体的に取り組もうとする。
- (2) 箏曲にふさわしい発声や言葉の特性を生かして、どのように歌うかについて思いや意図をもって音楽表現を工夫する。
- (3) 箏や箏曲の歌の特徴を捉えた音楽表現をするために必要な基礎的な技能を身に付けて演奏する。

(4) 箏の音色や多様な奏法、旋律や形式を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽のよさや美しさを味わって聴く。

4 教材について

(1) 「姫松」

箏の手ほどきとして平易な曲で、初心者にとって大変親しみやすい曲である。奏法として難しい部分もないので、歌いながら楽器を演奏することができると思う。また、箏曲の発声や歌い方を感じ取り、表現を工夫するということから適切であると考え、選曲した。

(2) 「この道」

ベル・カントの発声の演奏と箏曲の発声の演奏があり、それぞれの歌い方の違いを比較しやすいと考え、選曲した。

(3) 「さくらさくら」

生徒にとって馴染みのある曲である。右手の親指のみで演奏できる。箏の奏法としては、押し手があり、「姫松」で基本的な奏法を身に付けた後の演奏曲として適していると思う。また、「六段の調」を扱うにあたり、箏の特徴である音色の変化を体験させることができると考え、選曲した。

(4) 「六段の調」

段物の代表作であり、初段をのぞいて各段とも 104 拍と一定している。曲は、段を追うごとに速度が変化していくのも特徴である。箏の代表的な奏法が多く使われており、箏の独特な音色の変化を感じ取るだけでなく、速度の変化による曲想の違いを楽しむことができると考え、選曲した。

5 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕ア・イの関連及び具体的な学習活動

指導事項	歌唱イ・・・曲種に応じた発声により、言葉の特性を生かして歌うこと。 器楽イ・・・楽器の特徴を捉え、基礎的な奏法を身に付けて演奏すること。 鑑賞ア・・・音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。		
〔共通事項〕ア イ	音色	リズム 拍 拍子 間 速度 序破急	旋律 テクスチャ 音階 調
具体的な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 箏の基礎的な奏法と姿勢を身に付ける。 ・ 曲種に応じた発声について、比較鑑賞や表現活動を通して特徴を知覚・感受し、表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 箏曲を鑑賞したり演奏したりする中で間を味わう。 ・ 「六段の調」の中で、速度や特徴的な奏法による曲想の変化を味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平調子による旋律の特徴を感じ取る。

6 題材の評価規準

	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
題材の評価規準	①箏の音色や奏法に関心を持ち、学習に主体的に取り組もうとしている。 ②箏の音色や奏法、旋律など音楽的な特徴や曲想などに関心をもって、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	①箏曲にふさわしい発声や言葉の特性を生かして、どのように歌うかについて思いや意図をもって音楽表現を工夫している。	①箏の特徴を捉えた音楽表現をするために必要な基礎的な奏法などの技能を身に付け演奏している。 ②箏曲にふさわしい発声や言葉の特性を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。	①箏の音色や多様な奏法、旋律などを知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを感じ取って音楽のよさや美しさを味わって聴いている。
1時	①		①	
2時		①	②	
3時			①	
4時	②			①

7 指導と評価の計画（全4時間）

時	◆ねらい○学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準と評価方法
1	◆箏の基礎的な奏法を身に付ける。 ○箏の基礎的な奏法を身に付ける。 ・座り方、姿勢（構え方）、爪の付け方 ・楽器の各名称 ・調弦の仕方 ・「姫松」を演奏する。 ・箏の基礎的な奏法を意識して歌いながら演奏する。	○一つずつ丁寧に確認し順序立てて的確に行う。 ○二人組になり、お互いに確認させる。 ☆箏の音色や奏法に関心を持ち、基礎的な奏法で演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 （関① 活動観察） ○基礎的な奏法を意識しながら演奏できるように助言する。 ☆箏の特徴を捉えた音楽表現をするために必要な、基礎的な奏法などの技能を身に付け演奏している。 （技① 演奏観察）
2	◆箏曲にふさわしい発声や言葉の特性を生かした音楽表現を工夫するために必要な技能を身に付ける。	
本時 ※公開	○箏曲にふさわしい発声や言葉の特性を生かし、音楽表現を工夫するために必要な技能を身に付ける。 ・「姫松」を箏で演奏しながら歌う。 ・前時の復習をかねて、奏法と姿勢を確認する。 ・「この道」を音色や発声に注目して比較鑑賞する。 ・ベル・カントの発声の演奏 ・箏曲の発声の演奏	○基礎的な奏法や姿勢に注意させる。 ○声の音色や発声に注目して聴かせる。 ○ベル・カントの発声と我が国の伝統的な歌唱の発声を聴き比べ、「音色」「声質」に関してそれぞれの

	<ul style="list-style-type: none"> ・ベル・カントと箏曲の発声の演奏を比較し、気付いたことを発表する。 ・「姫松」を発声や音色を工夫して練習する。 ・発声や言葉の特性を生かして歌う。 	<p>特徴を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○気付いたことを実際に歌わせ、特徴を捉えさせる。 ○活動を観察して発言を取り上げる。 ○模範演奏を聴き、どのような歌い方で歌えばよいかを考え発表させる。 ○箏曲の歌い方について、グループで話し合いながら練習をさせる。 ○実際に箏を演奏したり、歌ったりして試行錯誤しながら練習できるように助言する。 ○お互いに助言しながら、どうすればよりよい演奏になるか、音楽的な語彙を用いて話し合いながら練習する。 ○話し合いながら練習ができているか観察して声かけをしていく。 ○視覚的に気付かせ、演奏の工夫をしやすいように支援する。 ○歌う生徒と箏を演奏する生徒に分けて練習させる。 ○歌いながら演奏できるようにさせる。 ☆箏曲にふさわしい発声や言葉の特性を生かして、どのように歌うかについて思いや意図をもって音楽表現を工夫している。 (創① ワークシート・発言内容・活動観察) ☆箏曲にふさわしい発声や言葉の特性を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌う。 (技② 演奏聴取)
3	<p>◆箏の音色や奏法の特徴を生かした音楽表現をするために必要な基礎的な奏法を身に付ける。</p> <p>○箏の音色や奏法などの音楽的特徴を生かした音楽表現をするために必要な基礎的な奏法を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「さくら」を演奏する。 ・「押し手」の奏法を身に付ける。 	<p>○基礎的な奏法や姿勢に注意させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○弦を押さえる位置を分かりやすく説明する。 ○グループで教え合いながら練習させる。 ○間違った奏法や練習が滞っているペアには、個別指導をする。 ○基礎的な奏法を意識し、箏独特の音色を感じ取りながら演奏させる。 ☆箏の特徴を捉えた音楽表現をするために必要な基礎的な奏法などの技能を身に付け演奏している。 (技① 活動観察 演奏聴取)

4	◆箏の音色や奏法などの音楽的特徴を感じ取り、よさや美しさを味わいながら聴く。	
	非 公 開 ※ 撮 影	<p>○箏の音色や奏法などの音楽的特徴を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「さくら」を演奏する。 ・箏の演奏法を復習する。 ・「六段の調」の冒頭部分を聴き、箏独特の奏法と演奏効果に興味・関心をもつ。 ・楽曲について理解する。(八橋検校、段物) ・「六段の調」を鑑賞する。 ・速度の変化(序破急)を聴き取る。 ・独特な奏法による音の変化に注目する。(後押し・引き色・合わせ爪) <p>○「六段の調」を鑑賞し、箏曲のよさや美しさを味わいながら聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「六段の調」を鑑賞する。
		<p>○基礎的な奏法に注意させる。</p> <p>○「六段の調」の冒頭を楽譜通りの演奏と独特な奏法を用いない演奏で比較させる。</p> <p>○どのような奏法を用いているのかを考えさせながら聴かせる。</p> <p>○様々な奏法の効果と表現に気付かせる。</p> <p>○余韻の変化に注目させる。</p> <p>○速度の変化に気付かせる。</p> <p>☆箏の音色や奏法、旋律など音楽的な特徴や曲想などに関心をもって、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 (関② 活動観察)</p> <p>○学習したことを基に楽曲を総合的に聴くことができるようにさせる。</p> <p>☆箏の音色や多様な奏法、旋律などを知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを感じ取って、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 (鑑① ワークシート)</p>

8 学習指導について

(1) 授業実施日(公開) 平成28年1月19日(火) 第5校時 (2/4校時)

ア 本時の目標

- ・ 箏曲にふさわしい発声や言葉の特性を生かして、どのように歌うかについて思いや意図をもって音楽表現を工夫する。
- ・ 箏曲にふさわしい発声や言葉の特性を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌う。

イ 展開

○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準と評価方法
<p>○箏曲にふさわしい発声により、言葉の特性を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「姫松」を箏で演奏しながら歌う。 ・前時の復習をかねて、奏法と姿勢を確認する。 	<p>○基礎的な奏法や姿勢に注意させる。</p> <p>○2人組で、お互いに確認させる。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいを確認する。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">日本の伝統的な歌唱の特徴を探り、演奏しながら歌おう。</div>	
<ul style="list-style-type: none"> ・「この道」を音色や発声に注目して比較鑑賞する。 ・ベル・カントの発声の演奏 ・箏曲の発声の演奏 ・ベル・カントと箏曲の発声の演奏を比較し、気付いたことを発表する。 ・「姫松」の模範演奏を聴き、気付いたことを発表する。 ・「姫松」を発声や声の音色を工夫して練習する。 ・箏曲にふさわしい発声や言葉の特性を生かし、表現を工夫して歌う。 ・演奏しながら歌う。 ・「姫松」を全員で歌いながら演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○声の音色や発声に注目して聴かせる。 ○ベル・カントの発声と我が国の伝統的な歌唱の発声を聴き比べ 「音色」「声質」に関してそれぞれの特徴を考えさせる。 ○気付いたことを実際に歌わせ、特徴を捉えさせる。 ○活動を観察して発言を取り上げる。 ○模範演奏を聴き、どのような歌い方で歌えばよいかを考え、発表させる。 ○実際に箏を演奏したり、歌ったりしながら表現を工夫させる。 ○お互いに助言しながら、どうすればよりよい演奏になるか、音楽的な語彙を用いて話し合いながら練習する。 ○話し合いながら練習ができていくか、観察して声かけをしていく。 ○視覚的に気付かせ、演奏の工夫をしやすいように支援する。 ○歌う生徒と箏を演奏する生徒に分けて練習させる。 ○歌いながら演奏できるようにさせる。 ☆箏曲にふさわしい発声や言葉の特性を生かして、どのように歌うかについて思いや意図をもって音楽表現を工夫している。 (創① ワークシート・発言内容・活動観察) ☆箏曲にふさわしい発声や言葉の特性を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌う。(技② 演奏聴取)
<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返り。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時で学習したことを意識して演奏させる。 ○学習したこと、わかったこと、身に付けたことを具体的に振り返らせる。

<p>「十分満足できる」(A)と判断される状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発声や言葉の特性などについて知覚・感受したことを具体的に発言したり、気付いたことを歌って試しながら表現の工夫している。 ○気付いたことと声の音色の工夫とを結び付けて考え、実際の演奏に生かして表現している。 <p>「努力を要する」(C)と判断される状況への働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○比較鑑賞や模範演奏を聴いて、音色の違いや発声に着目して気付けるように支援する。 ○短い節を取り上げて一緒に歌い、自信をもって歌えるように支援する。

ウ 板書計画

目標 日本の伝統的な歌唱の特徴を探り、演奏しながら歌おう！

比較

1 曲目	2 曲目

「姫松」の歌い方は？

ひめまつ こまつ ひめまつ こまつ
みどりの いろませ はるごとに

(2) 授業実施日 (非公開) 平成28年1月26日 (火) 第5校時 (4 / 4校時)

ア 本時の目標

- ・ 箏の音色や奏法、旋律など音楽的な特徴や曲想などに関心をもって、鑑賞する学習に主体的に取り組む。
- ・ 箏の音色や多様な奏法、旋律などを知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを感じ取って、音楽のよさや美しさを味わって聴く。

イ 展開

○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準と評価方法
<p>○箏の音色や奏法などの音楽的特徴を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「さくら」を演奏する。 ・ 箏の基礎的な奏法を復習する。 <p>・ 本時のねらいを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>箏の魅力を感じ取ろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「六段の調」の冒頭部分を聴き、箏独特の奏法と演奏効果に興味・関心をもつ。 ・ 楽曲について理解する。(八橋検校、段物) ・ 「六段の調」を鑑賞する。 ・ 速度の変化(序破急)を聴き取る。 ・ 独特な奏法による音の変化に注目する。(後押し・引き色・合わせ爪) <p>○「六段の調」を鑑賞し、箏曲のよさや美しさを味わいながら聴く。</p>	<p>○基礎的な奏法や姿勢に注意させる。</p> <p>○2人組で、お互いに確認させる。</p> <p>○「六段の調」の冒頭を楽譜通りの演奏と、独特な奏法を用いない演奏で比較させる。</p> <p>○どのような奏法を用いているのかを考えさせながら聴かせる。</p> <p>○様々な奏法の効果と表現に気付かせる。</p> <p>○余韻の変化に注目させる。</p> <p>○速度の変化に気付かせる。</p> <p>☆箏の音色や奏法、旋律など音楽的な特徴や曲想などに関心をもって、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。(関② 活動観察)</p> <p>○学習したことを基に、楽曲を総合的に聴くことができるようにさせる。</p>

・本時の振り返りをする。

☆箏の音色や多様な奏法、旋律などを知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを感じ取って、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。（鑑① ワークシート）
○学習したこと、わかったこと、身に付けたことを具体的に振り返らせる。

「十分満足できる」（A）と判断される状況

○箏の音色や多様な奏法が生み出す特質や雰囲気について、感じ取ったことを音楽を形づくっている要素と関連させながら、箏の演奏のよさについて自分なりの考えを具体的に書いている。

「努力を要する」（C）と判断される状況への働きかけ

○比較鑑賞による演奏の違いや、実際に演奏を体験したことを手がかりにししながら、音色や奏法の特徴について一つでも多くのことに気付くことができるように支援する。

ウ 板書計画

目標 箏の魅力を感じ取ろう！

「六段の調」

作曲 八橋検校

段物…

独特な奏法

後押し

引き色

合わせ爪

どんな音色がしたか

--

楽譜通り	装飾なし